

神戈陵を渡る風3

令和5年度 川辺高校 校長通信 第129号(通算)

令和5年12月8日(金)発行

12月になり、今週は2年生が修学旅行に行っています。私も修学旅行に同行していますが、校長通信は、予定通りに発行しています。今日は、どんな日か調べてみるとビートルズのジョンレノンが凶弾に倒れて亡くなった日であり、太平洋戦争の開戦日です。古来から日本ではこの日に針供養を行っていた風習もあります。変わったところでは、有機農業やオーガニックの認知拡大のために制定された【有機農業の日】でもあるそうです。オーガニック野菜を食べてみましょう。



はしご車が設置確認に来ました

南薩の神話

日本で最古の書物といわれる『古事記』が『日本書紀』とほぼ同時期に作られています。國學院大学のWeb資料では、古事記は、漢字で書かれた書物で、天皇家を中心とする歴史を記録し、後世に伝えるために作られたとされています。また、古事記は声に出して読むことを前提とした書物だったとされています。作った人は、太安万侶(おのやすまろ)と稗田阿礼(ひだのあれ)です。古事記にはドラマチックな話が沢山書かれており、歴史を人々の記憶に刻み込み、後世に伝える口承文芸としての叙情詩のようなものとして作られているようです。

では、この『古事記』と南薩の神話とは、どのような繋がりがあるのでしょうか。『古事記』は3巻で構成されています。上巻は天地のはじめから天孫降臨(てんそんにりん)前後の神々の物語(神話)が語られています。なんと、旧制鹿児島県立川辺中学校の校歌(作業時間に流れる旧校歌)の一番の歌詞には『高千穂 笠沙 神代より〜』と謳われています。まさしくこの神話の舞台がこの南薩にあった言うことです。神話に出てくる神様の言い伝えやゆかりの地名が伝説と共に南薩のあちこちにあります。

例えば、知覧にある豊玉姫神社、ここはその名の通り、豊玉姫(とよたまひめ)を祀っており、川辺の飯倉神社は、豊玉姫の妹である玉依姫(たまよりひめ)を祀っています。二人とも神代の神話の重要人物です。また、南さつまには、天孫 瓊瓊杵命(にぎのみこと)と此花咲姫(このはなさくやひめ)が会い暮らした場所とされる笠沙宮跡(加世田)があり、此花咲姫の出身地とされる金峰にはブロンズ像が建っています。

11月19日(日)に、この南薩の神話を基に

本校美術部の皆さんがオリジナルキャラクターをデザインし制作した紙芝居を音楽と語りで紹介するイベントが開催されました。



知覧の取違(とりちがい)集落の地名の由来には豊玉姫と玉依姫のエピソードがあり、豊玉姫にまつわる地名が知覧には沢山残っています。



沖つ鳥鴨着く島に我がいねし
妹は忘れし世のついでとて

赤玉は緒さえ光れと白玉の
君が装い貴くありけり

榎原宮

川辺小学校創立150周年

令和5年11月11日(土)

近くの小学校である川辺小学校が学校創立150周年を迎え、川辺文化会館で記念式典が挙行されました。



伝統の【平山太鼓踊り保存会】



OB・OGもいる【川辺フィルの演奏】



1,000人を目標に集められた伝統の【校歌体操】

はしご車からの風景

消防署のはしご車が出動した際、実際に本校舎の屋上に届き、救出作業が出来るのか等、設置場所の点検・確認が行われました。



正面玄関前に設置



1号館の屋上(地学室の上)に接近

はしごをいっぱい伸ばすと先端のゴンドラ(人が乗れる場所)は約35mぐらい上空になります。

まるで、ドローンを飛ばして撮影しているような高度になるので、ゴンドラからの眺めは下の写真のような風景になります。

